

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第29号 2012年7月

もくじ

巻頭言・「企業の審査やコンサルティングを通じて思うこと」	稲田 昂
第8回全国河川水質調査に参加して	倉光 康夫
糸魚川～静岡中央構造線と三次元構造のフォッサマグナ西縁線について	藤野 良洋
「第24回環境寄席」出席報告	川口 尚文
第24回 環境寄席を終えて	只野 らつきよ
新会員紹介	林 鷹央
「環境カウンセラー」は減少させて良いのか!	糸井 守



ノゴマ



礼文島より利尻富士



ハクサンチドリ

撮影地: 礼文島 撮影者: 中西由美子

巻頭言・「企業の審査やコンサルティングを通じて思うこと」

稲田 昂

エコアクション21、ISO14001の審査、省エネ診断、エコアクション21支援コンサルティングなどで企業を訪問しています。企業の環境への取組を支援する立場からすると、まず経営の安定が前提ですが、2008年9月のリーマンショックを契機にした世界的な経済不況、その1年半後の東日本大震災があり、生産や売上の変動は激しい状況にありました。最近では円高とEUの国々の金融危機もありますが、全体としては少し元気と落ち着きを取り戻しつつあると思えます。

私たちMECCの事業者部門の方の多くは企業の環境の管理活動、技術的な支援に携わっているので、一時ほどの混乱はなく、活動の機会があるのではないのでしょうか。

中小企業を訪問して思うことがいくつかあります。それぞれの企業が多く数の従業員を支えていること。技術的に非常に特徴があり元気なところもあること。管理的には弱く、データをとり分析し、記録をつけ、計画、

手順をつくることには慣れていない企業もあり、パソコンの使い方など基礎的な部分から手取り足取りお手伝いすることさえあります。一方で、いろんな現場の設備を知る、経営者や実務の方とお話できるなど、貴重な経験が得られる機会でもあります。審査やコンサルティングが企業の経費、管理状態その他の経営状態の改善につながる場合には、社会への貢献ができた、と感じることができます。

円高など経営環境のきわめて厳しい時代です。MECC事業者部門のカウンセラーは経験や知識があり、それぞれの立場や得意分野で企業を支援できます。審査やコンサルティングにあたっては一人ひとりの知識や経験では限界がありますが、仕事仲間との大事なつきあいから克服してゆけることもあります。

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会のメンバーとの交流や定例会は、貴重な場であると思っています。

第8回全国河川水質調査（神田川）報告

倉光 康夫

「身近な水環境の全国一斉調査」(みずとみどりの研究会主催)として、ボランティアグループ等が地元河川の年1回水質を調査し、全国水質マップを作成しています。今年度の調査は平成24年6月3日(日)に全国約1000の市民団体が6500箇所を実施しました。

この調査には武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会から神田川水系(担当:糸井、保坂、渥美、井田、倉光)、玉川上水系(担当:澄川、前田)に毎年参加しています。ここでは、小生が参加した神田川水系についての報告を行います。

前夜にかなり強いにわか雨があったためか水の濁りや泡立ちが目立ちました。昨年度と比較して、上流部は変化がありませんでしたが、中下流部で水質が悪化していました。これは区部の河川の特徴である下水道が合流方式で、わずかな雨量でも未処理の下水が河川に流れ込むため、前夜の雨の影響と考えられます。これが神田川流域の大きな課題となっています。(妙正寺川の神田川合流付近(高田馬場駅付近)でも同様でした。)



調査同行の井田さん、渥美さん(倉光撮影)

また、飯田橋駅付近の水質が最も悪くなっています。これは潮の干満の影響で飯田橋付近の流れが緩慢になり、淀んでいるためと思われます。しかしながら全体として5年前と比較して水質が改善していることがわかりました。今年は上中流部付近で2m位の青大将が4匹ぐらい水中を移動しているのを発見しました。

なお、平成19年度以降の全国調査地点の全データが次のホームページに掲載されているので、ご覧ください。

(<http://www.japan-mizumap.org/>)

第8回河川水質調査結果

神田川 測定場所	水質 (COD)		
	平成24年 (水温℃)	平成23年	平成19年
水源(井の頭公園御茶ノ水)	0 ppm 16.7	0 ppm	0~1 ppm
上流部(三鷹台駅付近まで)	2 (21.7~20.4)	2	2~3
中流部(下落合駅付近)	2~4 (18.0~19.0)	2~4	6~8
下流部(飯田橋付近)	8以上 23	6~8	8
柳橋(隅田川合流部)	8 22	6	8
隅田川(神田川合流付近)	8 22	6	8

(神田川ネットワーク 報告データから抜粋)

糸魚川～静岡中央構造線と三次元構造のフォッサマグナ西縁線について

藤野 良洋

地球の割れ目、とも称せられる三次元構造“フォッサマグナ”が表面に現れている糸魚川は、世界的にも珍しく、ユネスコにより2008年に我が国最初の「地球ジオパーク」に認定されています。その西縁は糸魚川～静岡中央構造線であり、蓮華温泉から朝日岳・雪倉岳から続く後立山連峰(白馬岳～針の木岳方面)～北アルプス連峰(槍ヶ岳～穂高岳等)～南アルプス赤石岳等を経て駿河湾等に至ります。ここで「駿河湾等」と言われるのは未だ全容が解明されていないためです。一部が岐阜県へ延伸して濃尾平野に至っており、先の大戦末期に起きた「根尾谷断層・濃尾地震」との関連が疑われています。東縁線は関東平野に至るとされているが未だ全線が解明されていません。

フォッサマグナ中央部分には、マグマ噴出口である火山列が南北方向に現れ、代表的な火山だけでも新潟焼山・妙高山・黒姫山・飯綱山・八ヶ岳・富士山・箱根連山・天城山があります。基本的に地質は破碎帯で、地耐力は流動的、常に崩壊しつつあると言えます。

糸魚川～静岡中央構造線地域では地盤が少しずつ動いている所が大半で、国交省の土石流危険地域指定が多く、この構造線を横断している道路では毎年のように崩落が発生し、雪解けが終わって安全確認できる7月初旬迄は自動車通行は制限されます。特に小谷村では、村民が居住している地域の多くが危険地域に指定されており、移住推奨地域になっています。

このような興味を持って糸魚川ジオパークと「フォッサマグナ温泉」や蓮華温泉を訪れてはいかがでしょうか？

「第24回 環境寄席」出席報告

川口 尚文

“寄席”に行ってきたヨ。面白かったなあー。アハハの大笑いだった”で報告終わり。という訳にはいかなかった。何しろこの「環境寄席」我がNPO法人の年間活動計画の一行事であるからである。この企画のプロデュースは林家カレー子師匠(彼女は、れっきとした「環境カウンセラー」で、MECCのメンバー)でありその啓蒙活動の一環に参加したのであるから、報告書の表題も悩んだが、「出席報告」とした。

とはいえ、報告書を書くことになるとは夢にも思っていなかったもので、以下については記憶違いも含めて拙文になることをご容赦いただきたい。

さて プログラムであるが、会場は「武蔵野公会堂」大ホールで、日時は5月30日(水)、昼席と夜席に分かれ、木戸銭もそれなりに取るという堂々の興業である。ここでユニークなのは「入場料が牛乳パック100枚で無料」になることであり、環境寄席ならではの試みであった。昼席におじゃましましたが、ウイークデイの午後でもあり、案の定お歳をめされた淑女方が主で満席(定員超え400人近い)であった。客席には埼玉カウンセラーの方やお歴々もお見かけした。

開演前にボランティア女性お二人による紙芝居(地球46億年を1日で表わしたら)が入り、いよいよ林家まる子さんの司会で始まった。この会は林家ライス・カレー子一家総出で運営されるとのことであり、まる子さんは今秋おめでたで、これからは「ちびまる子」さんが加わることも期待される。

まず祝辞は斉藤鉄夫元環境大臣(代理の方でしたが)と、邑上守正武蔵野市長よりいただき、トップバッターは「只野らつきよ」さん(彼も環境カウンセラー)の漫談であった。その後もプロの落語家やコントで大いに会場を沸かせたが、中入りには武蔵野市の行政マンから「ごみ減量」・「防犯」・「防災」についてプロ顔負けの愉しくためになるお話があり、募金活動を挟んで、「林家ライス・カレー子」師匠の環境漫才で締めくくられた。この演題では客席に「温暖化！」の掛け声を唱和するなど、大いに盛り上がり喝采のうちに終了した。

この行事が毎年開催され24回も継続されていることに感激し、糸井理事長の言われる「環境漫才」と「環境教育」のみごとな融合を実感できたことをもって、敬意を表して報告とする。

第24回 環境寄席を終えて

先月、5月30日に林家ライス・カレー子の環境寄席を無事に終えることができました。ありがとうございました。今回で24回目となりました。

今回も何点か特徴があったと思います。まず1点目は、師匠が、武蔵野市にいらっしゃっている被災地の方々を無料で招待したという点です。どのくらいの方が御来場頂けたかはわかりませんが、きっと楽しんでいただけたのではないかと思います。

2点目は牛乳パックです。この環境寄席では牛乳パックを100枚お持ち頂くと無料で入場できます。今回はその牛乳パックの量が今までで一番多かったそうです。約4000枚くらいは集まったのではないかと思います。

3点目は、武蔵野市の市長、消防署、警察署、市役所の方々という市民を守る方々が舞台上に立たれたという点です。いつも応援していただいています、これだけの方々が舞台上に立たれたのはおそらく初めてだと思います。

只野 らつきよ



中央が筆者、只野らつきよ

これらの3点を通して私は、師匠がいかに普段から地域に密着して活動されているかを再度学ばせていただきました。私もライス・カレー子の弟子として、大きな目標を抱きながら、地域の方々にも喜んで頂ける芸人を目指して頑張っ参ります。

● 新 会 員 紹 介 ●

＜ 林 鷹 央 さん ＞

三重県生まれ。愛知から東京に移って育ち、幼少より水辺の生きものに親しみました。美術大学院卒業後、映像・グラフィックのデザイナー職を経て、田んぼの生きもの調査プロジェクト、NPO 法人メダカのがっこうなどで生きもの調査の指導員を務め、全国の田んぼをまわりました。2006年に「生きもの係」として独立し、フリーの環境活動家に。2010年に「生きものマスター協会」を起ち上げ、都市部の人々が環境に関心を寄せるように取組始めました。メディア出演、コラム執筆、専門学校講師など、美術系ならではの

分かりやすい表現で活動中。得意分野は「田んぼの生きもの」「街の生きもの」「農村文化」「イラスト」、趣味は民謡（三味線・唄）、気、ヒーリング、伝統文化の再考です。



MECC では地域に根ざした活動の大切さを学ばせてもらい、地元の自然環境向上に役立てたいと思っています。

「環境カウンセラー」は減少させて良いのか！

糸井 守

環境大臣登録の「環境カウンセラー制度」が1996年に発足してから本年度で17年目になる。

環境カウンセラーの登録者の推移

徐々に増えていると思っていたら、近年、減少傾向にあることに驚いた。2008年（平成20年）のピーク時には全国の登録者が4620名いたものの、昨年（平成23年度）は前年に比して227名ものが減り、総数4292名になってしまった。（右表参照）

	初年度		13年目	14年目	15年目	16年目	17年目
年度	1996	～	2008	2009	2010	2011	2012
登録者数	986	～	4620	4599	4519	4292	
対前年増減数		～		-29	-80	-227	
第1期登録者数	986			→ 5 5 7			

環境カウンセラー制度が開始された最初の登録者は、1996年は986名だったのが現在557名になっており、実に429名減少している。この理由はいくつか考えられる。

当初は毎年400～500名の申請者があったが、毎年300名くらいに減り、現在は120名強になっている。

1つには、環境カウンセラーは「専門的な知識と経験を活用して環境カウンセリングを行い得る能力を有する者」という必要条件があり、必然的に高齢者が多くなる。2つには、日本の現在の経済・社会状況が非常に厳しい時代で、環境への意識・認識はあっても、ボランティアな環境活動への行動余裕がなくなっていると考えられる。3つには、環境カウンセラーへの登録申請が減っているため登録者も少なくなっている。

日本の生産・消費活動のレベルは、エコロジカル・フット・プリントから見ると、2、3個分の地球が必要になるほど地球の環境容量を大きく超えた状況にある。これらの意味では、環境カウンセラーの果たすべき役割は、従来にも増して必要かつ重要になっていると考える。

これからの日本を持続的に発展させていくには、環境活動への意識・情熱・行動力ある積極的な人材登用、ボランティアな環境活動に対する精神的満足の提供、環境活動推進への市民・行政・企業等の連携・協働促進の強化などを進めて「環境カウンセラー」を増やしていく必要があると思う。

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会 (MECC) 事務局
 180-0003 武蔵野市吉祥寺南町3-31-16 糸井守
 TEL：0422-45-0352 FAX：0422-45-0353
 ホームページ：http://www.mecc.or.jp/
 編集者：中西由美子